

私は、一時期、南会津に住んでいたことがある。正確には、単身赴任という形である。昔、私の妻の弟、私からすると義弟が、仕事で田島町（現南会津町）に行くことになった。そのとき、引越の手伝いで赴いたわけだが、その後、自分がここに住むことになろうとは考えもしなかった。

私の南会津時代を振り返ってみたいと思う。

私は、ある中学校に6年間お世話になり、最後の2年間は教務主任をしていた。2月20日過ぎだったと思うが、校長室に呼ばれ「教頭に昇任できそうだ。ちょっと遠いけどな」と校長先生に言われた。それから「いいか、誰にも言うなよ。奥さんにも言うなよ」と釘を刺された。この「ちょっと遠いけどな」がずっと気になっていたが、人事異動内示の日を迎え、また校長室に呼ばれた。「南会津町立檜沢中学校というところだ」とのことであった。私は「えっ南会津？檜沢ってどこ？」と心の中で思ってしまった。十分遠いのは理解できたのだが、地理的なことがよくわからなかったのである。

私は校長先生の指示通りに、奥さんにも誰にも言わず、人事異動公表の日までがんばり通した。お陰で奥さんには「あなたは私にも言ってくれなかった」と今でも恨まれている。職場の送別会では、『謙虚・誠実・実行』をモットーにがんばってきます」とあいさつをし、離任式の日には、同僚の先生方からネクタイをいただいた。よく見ると、裏には刺繍された「謙虚・誠実・実行」の文字があるではないか。今でも襟を正す意味で時折このネクタイをしめることがある。

住まいは、残念なことに学校の目の前にある築〇十年の校長住宅だった。「冬を越せるのだろうか」という不安がよぎるほどの建物だった。今でも3月31日の夜のことは忘れられない。ずっと眠れなかった。翌日からの教頭としての仕事に対する不安ではなく、寂しい、人恋しいという状態だったと思う。「だれでもいいから早く人に会いたい。早く朝にならないかな」と一晩中考えていたものである。

教頭職の仕事は、聞いていた通り4月と5月は大変だった。やること、特に提出するものが多く、何より先が見えない、見通しがもてないことからくる大変さであった。しかし、時間があれば終わるのである。仕事量が多いのであるから時間はかかる。なおかつ、日中は先生方が目の前にきてなんだかんだあるし、校長先生には呼ばれるし、お客さんはくるし、電話はくるしで、自分のペースで落ち着いて仕事ができるわけがない。したがって、夕方から20時、21時、22時が勝負なわけである。あるいは、朝の6時30分からの1時間が重要になる。

最初は「なんで、こんな面倒くさい調査ばかりくるんだ」と思ったのだが、あるとき、ふと考えた。調査がきて、わからないから人に聞く、自分で調べる。すると、だんだんと自分の学校のことがわかっていくのである。昨年度までのことが見えてくる。「これは意味があるな」と思えると、取り組みもがぜん変わってくる。私の場合はそうであった。

6月になると、若干余裕が出てきた。そして、どうにか夏休みを迎えると、1学期のことを振り返ったり、これからのことを考えるゆとりが生まれた。教頭としての1学期を振り返ってみた。自分のデスクでパソコンを打ちながら仕事をしている。先生方が目の前に立ち、私に話しかける。そこには、パソコンを打ちながら先生方の話を聞いている自分がいたのである。「これではだめだ。これではただの事務やになってしまう」と気付かされた。

そこで、2学期からは、先生方が目の前にきたら、とにかく立つ、起立することにした。最初は先生方の方が驚いていたが、起立することで、間違いなく先生方の話を聞くことになった。これが習慣となってしまう、校長になっても、校長室に人が入ってくると、とりあえず起立している自分がいた。

(次号に続く)